

事業所名	学校法人子どもの森 発達支援SmileOn 児童発達支援	支援プログラム（参考様式）	作成日	令和7年	2月	17日
法人（事業所）理念	法人理念『子ども第一主義』事業所理念「この子が世の中で幸せを感じながら生きていけるように、そんな保護者の皆様の願いを、何とかしてサポートしたい！同じ志をもつスタッフが集まりました。『目の前の子どものことをどれだけ知っているか』私たちは常に、自分たちに問いただけます。知識や技術を磨くことの大切さは言うまでもありません。それでもお子さんとご家族のありようは、一組として同じではありません。私たちは常に、目の前の子どもに向かい合い、知ろうとする努力を続けます。お子さまを見守るご家族、地域、通園先などの小社会をつなぐ結び目として、共に目標を見定めて進んでいきたい。共に苦労し、喜びを分かち合う「成長への道」を進めていきます。」					
支援方針	SmileOnは「1・安心感の源となる感覚・運動面の育ち」「2・コミュニケーションと言葉の育ち」「3・共に生きる社会性の育ち」を支えます。これら3つの育ちはそれぞれ影響し合うと共に、「4・心身の健康や適切な生活リズム」を土台として育っていきます。そして日々の生活経験を通して、「5・社会的な認知や行動」が形成されていきます。SmileOnの療育は、こうした5領域の考え方のもとで進めて行きます。加えて「多職種連携」「専門性の向上」「包括的支援」を旨としています。					
営業時間	10時	0分から	17時	0分まで	送迎実施の有無	なし
	支援内容					
本人支援	健康・生活	SmileOnでは心と身体の健康が子どもの発達の源と考えています。またそれを支えるご家族の心身の健康も同じように大切です。プログラムを通じたお子様の身辺自立の支援と共に、ご家族の子育て支援も行います。具体的には、ご家庭での関わり方や生活の工夫を提案したり、現在の心配ごとや将来の見通しと一緒に考えたりします。 【対応プログラム：お仕度・お弁当・おやつ・排泄練習・着替え・面談・親子療育・ペアレントプログラム】				
	運動・感覚	感覚と運動の発達は全てのお子様にとって重要と考え、歩行や座位の安定から姿勢保持、バランス感覚や協調動作の発達を促すプログラムを取り入れています。座位の安定が得られたら、手先や道具の使用へと進みます。また感覚面の凸凹が認知や行動、情緒に及ぼす影響は非常に大きいため、お子様の感覚的特徴の把握に努め、必要な感覚が得られ、過剰な刺激を減らした「安心できる環境」を用意します。 【対応プログラム：運動遊び・制作活動・感覚遊び・散歩・自由遊び】				
	認知・行動	本人の「理解」と「情緒の安定」の度合いに応じたプログラムの提供を通じ、ものごとが「分かる」、自分の思いが「認められる」、そして行動した結果「できた」といった成功経験を重ねていきます。それによって周囲の世界を的確にとらえ、感情や行動を調整する力が育つことを目指します。 【対応プログラム：来所から帰宅まですべてのプログラムを通して育んでいきます。】				
	言語 コミュニケーション	小さいお子様はスタッフと1対1のコミュニケーションを重点的に行い、発達段階に合わせて集団での指示理解や他児とのやりとりへと進めます。非言語的コミュニケーションも重視し、視線やジェスチャー、指差しや写真、絵等も使って意思疎通を促します。さらには感情表現や出来事の説明、質問応答や意図理解の向上も目指します。 【対応プログラム：集まり・集団活動・自由遊び・個別または2人の取り出し療育】				
	人間関係 社会性	大人との関わりにおいて基本的安心感を育てる段階から、他児と過ごすことに慣れ、同じことをしたり関わったりする楽しみを知る段階まで、お子様のご様子に応じて環境を設定していきます。構造化された環境やプログラム展開により、無理なく集団に参加できるように支援します。 【対応プログラム：来所から帰宅まですべてのプログラムを通して育んでいきます。】				
家族支援	ご家族と共にお子様の育ちを支えることで、ご家族の安心と自信につながっていくことを願っています。心配や困りごとにいつでもご相談に応じます。ご希望の方にはお子様への関わり方や環境の工夫を一緒に考える「親子療育」や「ペアレントプログラム」も実施しています。なお、療育の様子はいつでもモニターにてご覧いただくことが出来ます。（あらかじめご連絡いただければ、スタッフがプログラムやお子様のご様子についてお話をいたします。）	移行支援	お子さまの主要な生活の場である保育園や幼稚園でのご様子を知ることは、療育を進める上でも、ご家族の子育てを考える上でも大切だと考えています。SmileOnは園との連携や訪問を行い、先生方とお子様の状態像や課題、支援方法の共有に努めます。園との連携を通じて就学後に必要な支援や環境を的確に把握できるので、就学先との連携も積極的に行っています。			
地域支援・地域連携	お子さまやご家族の課題は、地域の課題とも密接に関わっていると考え、地域連携に取り組んでいます。稲城市の自立支援協議会の各部会への継続的な参加、発達支援センター・他事業所、親子包括支援センター・子ども家庭支援センター等との情報共有に努めています。	職員の質の向上	スタッフは年間を通して各種の研修を受け、自分の専門分野や子どもの発達支援に関する知識と技術の向上に励んでいます。さらに、大学で専門職を育成する先生方よりSupervise（指導）を受け、それを支援に活かしています。先生方の専門は保育学・言語療法・作業療法・理学療法・心理学と多岐に渡り、具体的なケースや療育実践について客観的な助言を受けています。 【主な研修：虐待研修・感染症予防研修・緊急時対応・東京都発達支援人材育成研修・行動援助研修等】			
主な行事等	●療育参観と保護者交流会（6月・2月） 就学相談座談会・保護者会（6月） 保護者座談会（2月） ●遠足・お楽しみ会・卒業を祝う会・放ディと児発の交流プログラム（療育時間内でお子様の様子に応じて計画します。） ●避難訓練（毎月実施）					